



ステークホルダーとの価値共有

# 取引先とともに

その他の活動をご覧になりたい方はWebサイトをご覧ください。



公平な取引はもちろん、おいしく安全な原材料を安定的に供給できる仕組みづくりに協働しています。また、各取引先の協力のもと、アレルギーや原料原産地などの情報も開示しています。

## 安全・安心のために

### ■ モス食品安全基準

モスグループの食品安全管理体制の強化を目的に、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO22000の認証\*を取得しています。

この国際的に信頼性の高いISOの枠組みを基礎とし、モスバーガーの店舗や社風に合った独自の食品安全マネジメントシステム「モス食品安全基準」を構築、適正化を進め、調達や生産の現場から店舗まで、あらゆる工程での安全管理に努めています。

今後は新規事業、関連事業、海外の店舗にも適用を拡大し、モスグループ全体で食品安全管理を強化していける体制を目指しています。

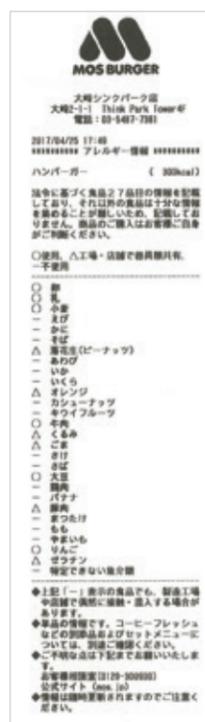
\* 認証範囲は本部の食品安全の関連部門と株式会社エム・エイチ・エス、直営5店舗

### ■ 栄養成分・アレルギー・原料原産地情報の提供

モスバーガーでは、スマートフォンとパソコンの公式サイトで商品の栄養成分情報、アレルギー情報、原料原産地\*情報を開示しています。また、店舗のPOSレジスターでもこれらの情報をレシート用紙に印字してお渡することができます。その他のモスグループの店舗でも、アレルギー情報の提供に努めています。これには原料や食材メーカーの方のご協力が不可欠です。

2015年に食品表示法が施行されるなど、食に関する情報は常に変化を続けています。法律に基づく対応だけでなく、お客さまの豊かな食生活に貢献することを旨とし、適切な情報を発信できるように取り組んでいます。

\* 農林水産省「外食における原産地表示に関するガイドライン」に準拠



アレルギー情報をレシート用紙に印字して提供

## 信頼できる食材の調達のために

### ■ 「モスの生野菜」の調達

モスバーガーで使用される生野菜は、全国約2,800戸の農家で、できるだけ農薬や化学肥料に頼らない方法で育てられています。使用する農薬の種類や化学肥料の量などの情報はすべて産地台帳に記録され、年に1回は本社メンバーが産地に赴き、その生産管理の状況を確認するようにしています。また、生産技術の向上や情報交換を目的とした産地間交流や、モスの店舗との相互の体験研修を積極的に実施し、より良い野菜づくりに向けて手を携えて取り組んでいます。各産地の取り組みは、モスバーガー公式サイトで「産地だより」としてご紹介しています。



産地を訪問するアグリ事業グループのメンバー

### ■ モスファーム

店舗で使用される生鮮野菜の安定した調達と産地との協力体制強化を目指し、2006年より農業生産法人(モスファーム)を設立・運営しています。現在、北海道から熊本まで6社にてトマトやレタスなどの栽培に取り組んでいます。いずれも現地の生産者との協働で、生産技術の向上の他、耕作放棄地の有効利用や後継者育成、新規就農者支援などにも取り組んでいます。



## Close Up

### 全国18の地域で「モスの産直野菜フェスタ」を開催

「モスの生野菜」を店舗メンバーが自ら近隣の協力農家で収穫し、産地直送の野菜をハンバーガーなどに使用する「モスの産直野菜フェスタ」を、産地の旬に合わせて全国をリレーする形で開催しています。2016年度も5月から1月まで実施し、地域・期間限定商品を販売。地元で収穫されたトマトやレタスを、より鮮度の高い状態でお客さまにお届けしました。



収穫をする店舗メンバー



デラックスモスバーガーダブルトマト

### Voice 参加店舗オーナーから

#### 地元産地でとれる新鮮でおいしい野菜をお客さまへ

福島での「モスの産直野菜フェスタ」の開催は、2016年度で4回目となります。開催時はキャストと一緒に産地へ出かけ、高湿度の冷気で効率的に冷却する「雪室予冷」など産地独自の取り組みにも触れ、いつも以上に野菜のおいしさや新鮮さに自信を持って販売ができました。毎年県民の日に合わせて開催しているため、県民の方からの認知度は高く、応援して下さる声は何より励みになっています。これからも県内産の野菜の安全性やおいしさを、産地の方と一緒に多くのお客さまに紹介していきたいです。



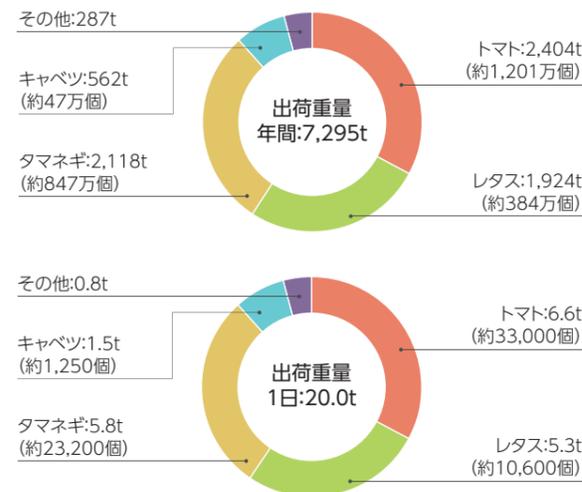
会津喜多方店 [福島県] 板橋 真仁 オーナー

## 取引先関連データ

### 「モスの生野菜」協力農家数と産地数

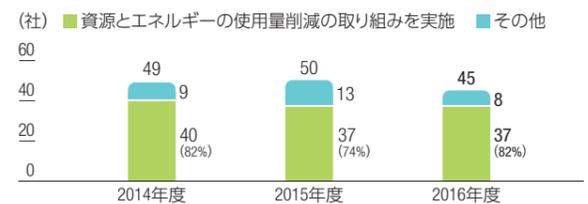
協力農家数	2,845戸
産地数	122カ所
モスファーム	6社

### 「モスの生野菜」の出荷重量



### 取引先アンケート

毎年、取引先に「モスグループ環境方針」などをお伝えするとともに、環境活動の実施状況をアンケート形式で調査しています。



### 配送時の環境配慮型車両の導入状況

1997年から、他社に先駆けて「常温・チルド・冷凍」の三温度帯を1台で配送できるトラックを導入。また委託配送会社の協力のもと、配送車両を環境負荷の低い最新規制適合車などに切り替えています。

環境配慮型車両の種類	台数(台)
電気自動車	0
CNG(天然ガス)自動車	1
ハイブリッド自動車	6
LPG(液化石油ガス)自動車	0
新長期規制適合車	214
合計	221